

第22回東日本事例研究オンライン研修会 発表概要シート

法人名	株式会社サン・ラポール南房総	施設名	サン・ラポール南房総
発表タイトル	双極性障害へのリハビリ介入 ～とある理学療法士の視点～		
研究の目的	双極性障害の見識をより深めて、今後のリハビリテーションや接遇の一助にするため		
発表の概要	<ul style="list-style-type: none"> ①施設概要 ②対象者情報 ③双極性障害について、どのように介入したか ④現在の状態、今後の展望 ⑤参考文献 		
研究方法	ご入居時の状態・状況と現在の状態・状況の比較。		
成果・結果	ご入居時には余命宣告をされ、病院を退院してきました。しかし、3年半過ぎた現在もご存命です。劇的な身体機能回復までは至っていないが、ご入居時よりかなり口数が増えて笑顔もみられるようになりました。		
考察	精神・心身機能異常は様々な症状を引き起こすトリガーになり得る。生きる気力がない人に対してはどんな治療を行おうとしても効果的ではない場合が多い。まずは、いかにして本人の気力を奮い立たせてあげるかが大事だと考えさせられました。		
アピールポイント伝えたいこと	<p>双極性障害に限らず、精神疾患のことを少し知っている。それだけで「あの人の、あの言動は病気から来ているものではないだろうか」と考えることができます。そう考えると今までより少しだけ相手にやさしく接することができるかもしれません。</p> <p>相手はやさしくされたら、やさしさを返してくれるかもしれません。</p> <p>そういう職場では自然と空気感が良くなると思います。そうすると仕事が楽しいと感じると思います。</p> <p>推察の域は出ませんが私はこのように考えています。</p>		